

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム室積なかよかん		
所在地	山口県光市室積松原8番1号		
電話番号	0833-78-2131	事業所番号	3571000276
法人名	(有)山幸興産		

訪問調査日	平成 20 年 1 月 19 日	評価確定日	平成 20 年 8 月 11 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	12 人	常勤 6 人	非常勤 6 人 (常勤換算 8.7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て(在来工法)	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	有 100,000 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食 200 円	昼食	300 円
	夕食 300 円	おやつ	200 円
その他の費用	月額 17,000 円		
	内訳	光熱水費11,000円、共同物品費2,000円、共益費4,000円	

(4) 利用者の概要 (1月19日現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	2	要介護 4	0
	要介護 2	5	要介護 5	0
	要介護 3	2	要支援 2	0
年齢	平均 84, 2 歳	最低 76 歳	最高 95 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 光中央病院 歯科 松田歯科クリニック
-------------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

1ユニットのホームに職員が12人という充実した職員体制の中で、利用者一人ひとりが自然体で暮らしていける場として工夫が凝らされています。木造の優しい家屋の周りには、花や野菜が植えられ、目の前に広がる砂浜や松林の景観と相まって利用者の穏やかな暮らしを支えています。天気の良い日には、できるだけ散歩に出かけ、近所の人と触れ合う機会を持ったり、買物や季節ごとの花見、月に1度の外食など生活にはりを持たせています。

(特徴的な取組等)

近所に同法人の小規模多機能型居宅介護事業所があり、利用者や職員同士の交流が図られています。食事の楽しみを大切にしており、利用者の希望や好みを前もって聞き、利用者と一緒に食事の準備や調理の手伝いをしてもらっています。ティータイムの時間には、喫茶店風に利用者からメニューを聞くなど、和やかな雰囲気づくりが行われています。テレビ体操や失禁防止体操、踊りなどできるだけ身体を動かすような工夫もしてられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の外部評価結果を基に、ケア会議で対応策を職員全員で検討しておられます。利用料金をパンフレットに分かりやすく標記し、職員の段階的な年間研修計画の作成、毎食後の口腔ケアやうがいを実施するなど改善されていました。

(今回の自己評価の取組状況)

スタッフ会議において今回の自己評価の意義について説明をし、職員全員に自己評価票を配布し記入してもらっています。管理者が意見を集約し、まとめたものを渡し、再度確認しておられます。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、年5回、館長、管理者、ケアマネ、利用者代表、老人会会長、民生委員、包括支援センターの職員の参加で開催しておられます。利用者やサービスの状況報告のほか、自己評価の内容や評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者から意見、助言等をいただきながら、サービスの向上に努めておられます。

(家族との連携状況)

利用者の状況はホーム便りで報告していますが、面会にこられる人が多く、その時には、より詳しく利用者の暮らしぶりを話しています。家族からの要望などは、訪問時などに聞くようにしていますが、毎月、意見や要望を書いてもらうための用紙を送付しており、こられない人への対応もできています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、回覧板を廻してもらうなど、利用者も地域の住民の一員として認めてもらっています。敬老会にも参加し、徐々にではあるが、地元の行事等への案内も増え、毎日の散歩で、地域の住民とも顔なじみとなっています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域密着型サービスとしてのグループホームの意義は職員全員が理解しているが、理念の中に謳われていない。	地域密着型サービスとしての理念の作成
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念はホーム内に掲示しており、管理者と職員はケア会議の機会などを捉えて理念の共有を図り、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域住民の一員として自治会に加入し、敬老会など地域の行事に参加している。近隣の住民とは散歩などですっかり顔なじみになっている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に自己評価、外部評価を実施する意義を十分理解しており、評価の過程を通じて日々のケアの振り返りや見直しなどサービス改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議では利用者やサービスの状況報告のほか、自己評価の内容や評価結果で明らかになった課題について説明し、参加者から意見、助言等をいただきながら、サービスの向上に努めている。	・運営推進会議の参加メンバーの拡大(地区の消防団、婦人会など)
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域ケア会議への参加も含めて、市の介護福祉課の職員とは日頃からお互いに相談したり話し合ったりと、良い関係づくりが出来ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回発行するホーム便りに利用者の暮らしぶりや健康状態、行事予定、職員の異動などを載せて報告をしている。面会の機会も多く、その時にも利用者の状況や金銭の預かり等について報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の来訪時に意見や要望を聞いている他、毎月の請求書と一緒に要望や意見を書いてもらえるよう欄を設け玄関先の苦情処理箱に入れてもらうなど、気軽に意見が出せるように工夫している。外部機関の明示や第三者委員の選任などは行われていない。	・外部機関の明示と第三者委員の選任の検討
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤6名、非常勤6名の職員体制で、利用者に対して柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限に抑える努力をしており、新しい職員の場合は利用者との馴染みの関係が出来るまで他の職員ができるだけフォローアップし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、段階に応じて受けることが出来るよう配慮されており、新人職員に対してはOJTの手法をとりながらベテラン職員がトレーニングをしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	光・下松・周南ブロックのグループホーム連絡会に参加し、サービス向上に向けた勉強会、情報交換に取り組んでいる。また、同法人の小規模多機能型居宅介護事業所の職員交流も行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前には、家族と住み替えによる不穏を最小限にするために話し合いをじっくりと行っている。ホームに慣れるまでは、家族の訪問を多くしてもらうなど利用者の状態に沿った対応を心がけている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>魚の見方やさばき方を習ったり、花の名前や歌を教わったりと、日々の生活の中で職員が利用者から学んだり、また、一緒に行う家事などを通して支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>家族との関係性を大事にしなが、できるだけ本人と接する中で、希望、意向の把握に努めるように心がけている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者には日頃の関わりの中での思いを聞き、家族には訪問時などに意見や要望を尋ねたり、それぞれの意見を反映しながら職員全体での意見交換やモニタリングを通して介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画期間での見直しを行うとともに、遂行状況等の評価は、毎月の全員ミーティングで行い、利用者に変化が生じた場合は、現状に即した検討、見直しを行っている。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族が病院に連れて行けない場合などの職員による通院介助や、訪問理美容の実施など、出来るだけ利用者や家族の要望の沿えるような支援を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関には1週間に1度の往診をしてもらっているが、それぞれの病歴に関わる他の医療機関においても継続受診をお願いしている。その場合は情報提供も適切に行い、利用者が安心できる体制を整えている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の医療機関との協力関係がとられており、利用者や家族の意向を踏まえた上で、かかりつけ医と相談し、その結果に応じた方針を全員で共有するようにしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者を常に人生の先輩として尊敬するよう職員全員が意識し、プライバシーを損ねるような言葉や態度にも気をつけている。個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い、ホーム外でも個人名を出さないよう気をつけている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の日常の状態を把握し、歌を歌ったり体操をするなどに活動したり、個々のペースで活動したり、メリハリのある生活ができるよう心がけている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者が食べたいものは、昼食後にみんなで相談して決めるようにしており、利用者の好みに応じた献立を立てている。食事の準備や配膳、片付けなども利用者の力に応じてできるだけ一緒に行うようにしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日入れるようにしてあり、時間は15時から17時までの間で、一人ひとりゆっくりと入浴できるように支援がされている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常生活の中で洗濯物を干したりたたんだり、掃除機を使ったり、モップがけをしたり、配膳、配茶など、一人ひとりの出来る力を引き出し、日々の生活の張り合いとなるような場面作りを行っている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日には必ず散歩に出かけており、利用者一人ひとりの状況に合わせて、ドライブ(季節の花見、みかん狩りなど)や外食などの計画を立て気分転換を図っている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、できるだけ鍵をかけないように心がけており、鍵をかけることについての弊害も職員は理解している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはと報告書に記録紙改善策を講じ、職員全員が目を通すように心がけている。重要な部分に関してはケア会議の中で検討している。転倒や窒息、誤薬等の利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止への取り組みが十分とはいえない。	・利用者一人ひとりの状態に応じた事故防止への取り組み
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命講習にも参加し、報告も行っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害マニュアルが作成されており、年に1回は消防署の協力で避難訓練や消火器の使い方などの研修を行っている。運営推進会議でも住民の理解を得るよう働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者一人ひとりの服薬内容が書かれたものはファイル化され、職員はきちんと把握している。服薬については、職員が名前を確認し、手渡しをして、飲み終えるまで見守り確認をしている。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄、歯ブラシの清掃・管理などについて、一人ひとりの口腔状態に応じて支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量や水分量などは記録され、利用者一人ひとりに状態にあった食事(刻み食やおかゆなど)が用意されているが、カロリーや栄養バランスなどは保健師や管理栄養士などのチェックは受けていない	・専門家によるカロリーや栄養バランスの指導
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	ホーム内では食べ物に触れる際の手洗い、外出後の手洗い、うがいの励行を行っている。ノロウイルスについては資料を取り寄せ、職員全員に配布しており、その予防については積極的に行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は、明るくみんなが座れるソファが置かれ居心地のよいスペースとなっている。玄関には利用者の手作り作品が展示され、外の畑にはねぎやチシャなどの野菜で季節感も味わうことが出来、生活そのものが感じられる雰囲気となっている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みについては、入居前によく話し合わせ、実際にも使い慣れたタンスや家族の手作り作品、写真や絵画、仏壇などが持ち込まれており、利用者の混乱を防いだり、安心感を持って過ごせるよう工夫されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム室積なかよかん
所在地	光市室積松原8-1
電話番号	(0833) 78-2131
開設年月日	平成 14 年 7 月 15 日

【サービスの特徴】

風光明媚な室積という環境の中、毎日散歩をしながら筋力の低下を防ぎながら、季節を感じたり、おしゃべりや歌を歌って暮らしておられます。また、毎日の入浴は清潔を保つと共に、ゆったりとした気分を味わっていただくのに喜んでいただいています。絵手紙を書いてご家族に送ったり、お花見・みかん狩り・月に一回の外出など外出することで、生活に変化をつけるようにしています。室積ならではの行事（普賢まつり、八幡様のお祭り）などに参加もしています。その方にあった援助を考え、楽しく暮らしていただけるようお手伝いしています。

【実施ユニットの概要】 (12月10日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	2	要介護 4	
	要介護 2	5	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 84.2 歳	最低 77 歳	最高 94 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	スタッフ会議の際、自己評価についての説明をし、各自に自己評価の用紙を渡して、それぞれ思っていることを記入してもらう。それを回収し、意見をまとめたものを作成し全員に確認をもらう。
評価確定日	平成 19 年 12 月 18 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>	散歩の際など、出会った際には挨拶や近況などについて話をしている。	よく畑でできた野菜をもらうので、お菓子を作ったときには持って行ったりしている。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	地区の敬老会に参加した。以前、自治会の花壇の花植えに参加したことがあるが、花をぬいてしまったりで逆に迷惑をかけてしまったこともあって、行事に参加することに消極的になってしまっている。	出来る人だけでも、ごみ拾いや花壇の手入れなどに参加していきたい。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をすることにより日頃の業務を振り返ったり、外部評価により自分たちで気付かない事を教えていただくことにより、改善し質の向上に役立っている。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	当事業所の行事や取り組みについてお話し、参加者のご意見を聞くようにしている。	もっと活発な意見交換をし、地域に貢献していけるようにしていきたい。
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	機会はもうけていないが、何かあれば伺ったり来られたりして解決するようにしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	光市のケア会議に参加し学習はしたが、実際に活用には至っていない。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日常において、虐待が行われないよう、職員同士で話し合いをしながら対応をしている。	研修に参加して学習していきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、書面での説明に加え質問を伺うようにしている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	請求書送付時に、意見などを書いてもらう用紙を同封しているが、それで出されたことは無い。面会時には近況をお話し、コミュニケーションをとるように心がけている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時にお話している。職員の移動や行事については、「なかよかん通信」にてお知らせしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	必要に応じて面会時や電話での情報開示をしている。日誌は情報開示を前提とし、具体的に記入するよう心がけている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時に、会話の中で聞くようにしているが、不十分と思う。外部機関や苦情受付担当などを明確に表示して家族がよく分かるようにしたい。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や連絡ノートを利用して提案を聞くようにしている。日常の業務の時に随時話をするように心がけている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の希望を聞きながら調整をするようにしている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職など職員が代わることは場合によっては仕方ないこともあるので、後任の職員が早くなじむように心がけている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修にはできるだけ参加するようにしているが、一部の職員のみが受けている。研修後の内部研修が不十分。		年間で計画を立てて、多くの職員が研修を受けてよりよい介護ができるようにしたい。
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	経験豊富な職員もあり、互いに協力しながら業務に取り組んでいる。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	特にケアマネジャーの交流がされている。職員同士で交流があるところとの情報交換をしている。		小規模多機能施設も含めてこれまで以上に他施設と交流を深めて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		ゆっくりとした時間に本人の想いを汲み取るよう努力したい。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		もっと会話を大事にしながらかわっていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にコミュニケーションをとりながら、普段の生活を伝えることにより「暮らし」を知っていただくようこころがけている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人同士では話せない日常のことを伝え、協力していきたい。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の兄弟や友人の訪問があったときは、居室や応接でゆっくりと面会してもらい、昔の話を伺い普通の会話に取り入れていくようにしている。		家族や知人とのかかわりを大切にしていきたい。
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	時にはぶつかることもあるが、それぞれの個性を尊重し職員が間にはいることでよりよい関係を築けるよう支援している。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	継続的なかかわりは大切であると考えている。退所されても近況を話しに立ち寄ってくださったり、訪問をすることもある。寄っていただくと、こちらも頼られていると言う実感がわき嬉しく思うし、家族のストレスの解消になればと思う。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を聞くようにしているが、「何にもしたくない。」と言われることが多く、職員も対応に困ることが多くなってきた。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用したり、面会時に家族に聞くことで情報収集するよう努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	おおまかにその方の現状を把握すると共に、その日の精神状態、身体状況などを考慮しながら、声かけで対処するか介助するかなどを判断するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	主にはスタッフ会議で議論しているが、日常的に面会時の情報収集や、ノートを使っての情報交換・提案をしている。家族には面会時に家族のニーズなどをお聞きするようにしている。	家族との会話の中で、より良い暮らしのためのケアを行う情報や要求などを伺う。
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアマネージャーを中心にスタッフ会議で話し合い、その結果を家族に話し、実行していくようにしている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に記入することにより、職員全員が個別記録を閲覧している。連絡ノートを使用し情報交換や意見を交換している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	グループホームにおける多機能性とはどのようなものか、把握できていないところがある。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員には運営推進会議に参加いただいている。ボランティアにはイベント時に協力していただき、楽しませていただいている。消防は避難訓練などで協力をお願いしている。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	自治会で認知症の話をしたことはあるが、開放とまではしていない。グループホーム以外の介護職の方、グループホームを知っていただくための研修の受け入れはしている。	もっと自治会など地域の方に認知症について知っていただく機会を設けて生きたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	病院に入院され、その後他の施設(特養)に移られるケースしかなかったため、今まではなかった。	今後、このようなケースが出で来る可能性があるため、その時は支援していきたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		小さなことでも家族や主治医と相談し、できるだけ利用者が安心して暮らせるよう話し合うようにしていきたい。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		今までは入院以外の住み替えはなかったもので、その場合は現在までの生活状況などをサマリーで病院に伝えていた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	職員一人一人が心がけている。	認知症になっても、人生の先輩として接するようにする。
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	他の利用者に迷惑が掛からない程度に、本人の意思や決定に基づいた暮らしを支援する。	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	「出来ること」「出来ないこと」を職員が把握し、出来ることをしていただくよう支援している。	「出来る」のに「したくない」方への対応を考えていきたい。
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	意思表示がうまく出来ない方の対応は、職員ペースになっている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	身だしなみは基本的には本人に任せているが、気温などを考慮しアドバイスしている。散髪は美容師による出張でおこなっている。(以前、お店に行った時、トイレなどの問題があったので)	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	元鮮魚店をしていた方に魚をさばいていただいたり、盛り付けや配膳などを一緒にしている。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	おやつの際に喫茶風にメニューをとってもらい、好みの飲み物を飲んでいただいている。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	その人にあわせたトイレ誘導をするようにしてはいるが、リハビリ対応が多くなってきている。	トイレ誘導を聞き入れてもらえない利用者への対応を考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		個人にあわせた声かけにより、よりよい暮らしを支援していきたい。
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		もっと家族と連携をとって、利用者の希望をかなえていきたい。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		家族へ付き添いや宿泊の案内をし、希望があれば対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	参加される方が決まっており、いつも来られない利用者への対応が難しい。		早めに行事の予定を決めて、参加をお願いするようにしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	理解をし心がけてはいるが、他の利用者とのことや安全を考えたとき、難しいこともある。		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	弊害は理解しているが、利用者の安全の事を考えると難しい場面もある。		「何故外に出て行くか」を考え、家族とコミュニケーションをとりながら、施錠をしなくていいようなケアに取り組みたい。
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	怪我をしないことを第一に考えながら、ケアするよう心がけている。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	異食などの危険があるようなものは、注意するようにしている。		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	出来ているものと出来ていないものがある。		マニュアル化し、全員に徹底するようにしたい。
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	一部の職員のみである。		外部の研修などを利用し、全員が行えるように訓練をしていきたい。
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	「事故報告書」や「ヒヤリはっと報告書」を全員に閲覧し、その都度改善策を考えている。		改善策が全部実行されていないものもあるので、対応をみんなで考えて生きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域への協力要請のお願いが十分ではない。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		ご自分の歯の方で、なかなか歯磨きが出来ない方への対応を考えたい。
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		手洗いをきちんとしていただくよう声かけや、介助により手指の清潔を徹底する。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関はオープンにしており、夏は網戸にしている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	台所で作る食事のにおいがしたり、庭やお隣の畑を見れば季節の花や野菜があり、心地よく過ごせていただいていると思う。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前のソファーや居間のテーブルでお話されている。居室でも気の合う人が集まって談話されていることもある。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭で使っておられた物(タンスや鏡など)をお持ちいただき、違和感のないようにしている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気をしながら、温度調節を行っている。居室も気温によってエアコンで調整している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	その方に応じて杖歩行や手すりをつけていただくなど、安全面は職員で話しながら気をつけている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各人にあわせて出来ることをしていただくようにしているが、便失禁の際などは混乱することが多く、対応に苦労している。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周りには、植物や簡単な野菜を植えている。	みんなで園芸をもっと楽しんでいけるようにしたい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない